

資金調達に関する補足資料



2026年9月14日

株式会社デ・ウエスタン・セラピテクス研究所

証券コード：4576

当社の現状

現在時価総額

~¥5bn

主力資産

H-1337

開発段階

P3準備中

潜在価値

Pipeline
Optionality

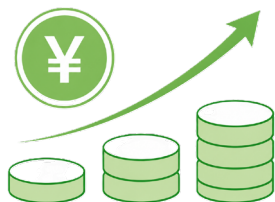
Why is DWTI still valued around ¥5bn?

当社の成長ロードマップ

既存収益基盤 × 後期パイプライン × 将来導出 で企業価値拡大

過去

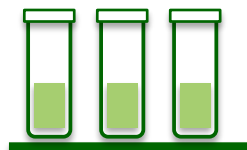
収益基盤の積上げ



- グラナテック、グラアルファ上市
- DW-1002の世界76ヶ国上市

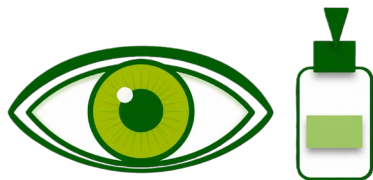
現在

後続パイプラインの価値顕在化



- H-1129のパイプライン化による次世代開発
- 開発後期品（DW-5LBT、DW-1002、K-321）の上市計画

H-1337が成長の中核

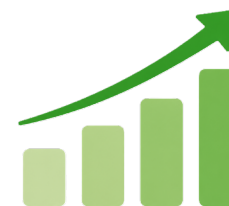


最大の価値向上
ドライバー

- 米国P2bの良好な結果
- 千寿製薬の支援による国内P3試験推進

将来

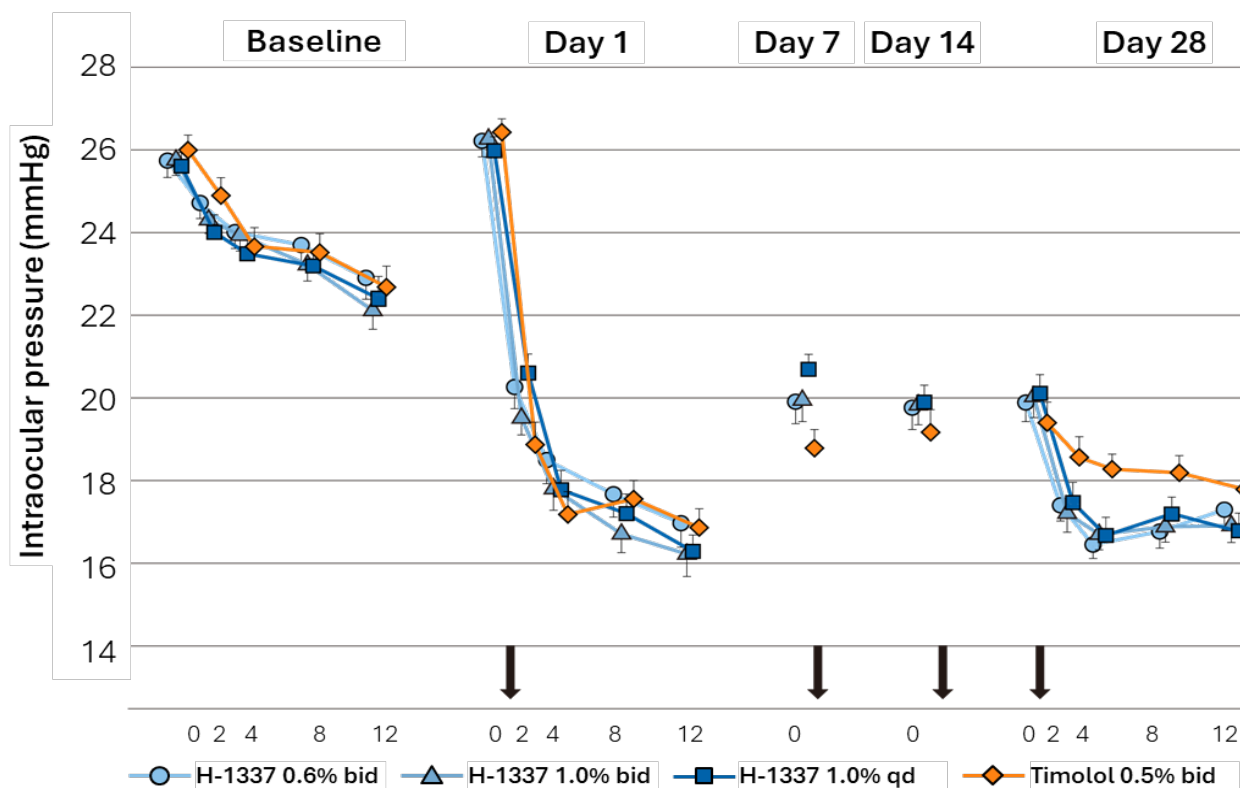
中長期の企業価値拡大



- ロイヤリティの拡大
- 眼科領域での事業価値向上
- 新規提携・適応拡大による成長余地

H-1337のP2b結果（有効性、安全性ともに良好）

米国P2b結果（期間 2023年8月～2024年8月）



試験概要

例数：201症例

用量：H-1337（0.6%QD,1.0%QD,1.0%BID）
timolol 0.5%BID

有効性

H-1337の3群ともすべて、有意に眼圧を最大30%低下（ $p < 0.001$ ）

安全性

結膜充血が発生、ほとんどが軽度

H-1337が狙う市場

緑内障治療は、第一選択薬だけでは十分にコントロールできない患者が存在。
H-1337は、追加治療の新たな選択肢を目指す。

1 標準治療の課題

第一選択薬で効果不十分
+
多剤併用による負担

2 H-1337のポジション

既存PG薬と異なる作用点
+
併用しやすい新たな選択肢

3 狙う市場 **第二選択薬の First Choice**

第一選択薬で十分に治療できない患者層を中心とする市場

市場ポテンシャル

対象患者層
最大 40%

(※1)

※1：下記資料を参考に当社算出
Journal of Managed Care & Specialty Pharmacy,
Vol. 25, No. 9 September 2019, 1001-1014

日本市場
約885億円

(※2)

※2 厚生労働省「第10回NDBオープンデータ」を
基に当社算出

米国市場
約30億ドル

(※3)

※3 下記資料を基に、当社にて分類・集計
Copyright © 2026 IQVIA.
Source : Calculated based on IQVIA MIDAS Dec 2020 MAT Reprinted
with permission

H-1337のポテンシャル（第二選択薬としての評価）

【ROCK阻害剤の比較】

	点眼回数/ 眼圧下降値	副作用
H-1337 (ROCK阻害)	1日1回/ 6~7mmHg	・充血：43.4%（P2b: ~4週） ・長期投与の副作用は不明
リパスジル※1 (ROCK阻害)	1日2回/ ~4mmHg	・充血：69% ・長期投与においてアレルギー性結膜炎・眼瞼炎の発現頻度が高まる傾向
ネタルスジル※2 (ROCK阻害)	1日1回/ ~5mmHg	・充血：53% ・渦状角膜症：約20%
【参考：第一選択薬】 ラタノプロスト※3 (PG)	1日1回/ 6~8mmHg	・虹彩・眼窩周囲組織（眼瞼）の色素沈着、まつ毛の変化 ・充血：8%

※1: 添付文書 グラナテック点眼液0.4%
 ※2: Label of RHOPRESSA®
 ※3: Label of XALATAN®

【差別化ポイント】



Efficacy

強い眼圧下降効果

1日1回投与で 6~7mmHg の眼圧下降



Safety profile

安全性プロファイルへの期待

充血は認められるものの、長期投与時の安全性を今後確認



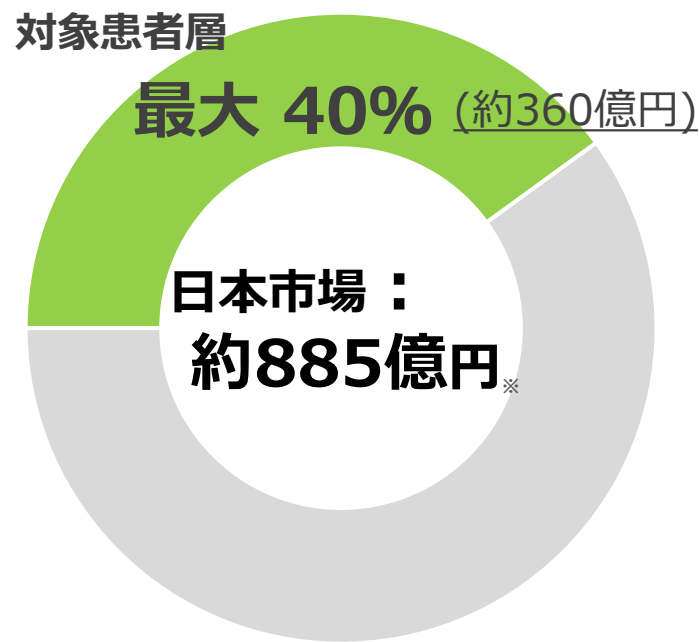
Usability

第二選択薬としての使いやすさ

PG関連薬で効果不十分な患者への追加・切替候補

**「効果」と「使いやすさ」の両立を目指す
次世代ROCK阻害剤**

日本市場と収益ポテンシャル



想定シェア（ピーク時）別のイメージ

日本市場に 占める割合	製品売上	目標と参考値	期待ロイヤリティ (当社収入)
20%	約180億円	◀ グラナテック, グラアルファの 承認時ピーク売上高合計	大きく貢献 目標：25億円/年
10%	約90億円	◀ グラナテックの 承認時ピーク売上高	さらに拡大 15億円/年
7.5%	約68億円		拡大 10億円/年
5%	約45億円	◀ 初期の浸透イメージ ◀ ネタルスジル（競合薬）	発生 7億円/年

※ 厚生労働省「第10回NDBオープンデータ」を基に当社算出

H-1337の成長ポテンシャル

国内単剤市場の価値を起点に、配合剤・海外展開が中長期的なアップサイドとなる

現在の価値の起点

将来のアップサイド

Base

日本市場

H-1337単剤



価値の起点

- 米国データを活用し後期開発からスタート
- 日本での開発期間短縮
- P1/P2相当の国内試験費用を抑制



Option 1

配合剤



- 患者利便性の向上
- 国内獲得シェアの拡大
- オプション行使後の開発費はパートナー負担

国内単剤の次の価値創出

Option 2

海外展開



- 米国開発・導出機会
- アジア・欧州での展開余地
- 新たなロイヤリティ機会

グローバルアップサイド

日本単剤



配合剤

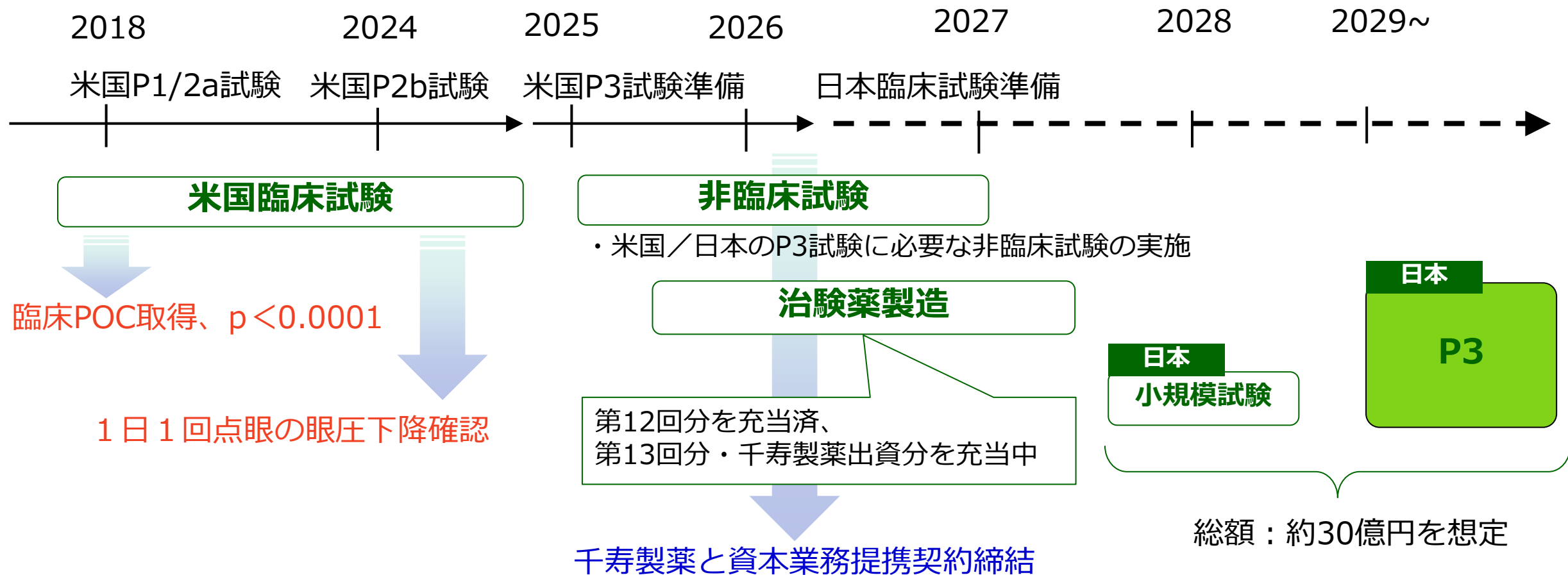


海外展開



価値最大化

開発計画と資金計画



(ご参考)
他開発品の上市計画

2026年4Q
神経疼痛治療剤
Bondlido
(米国)

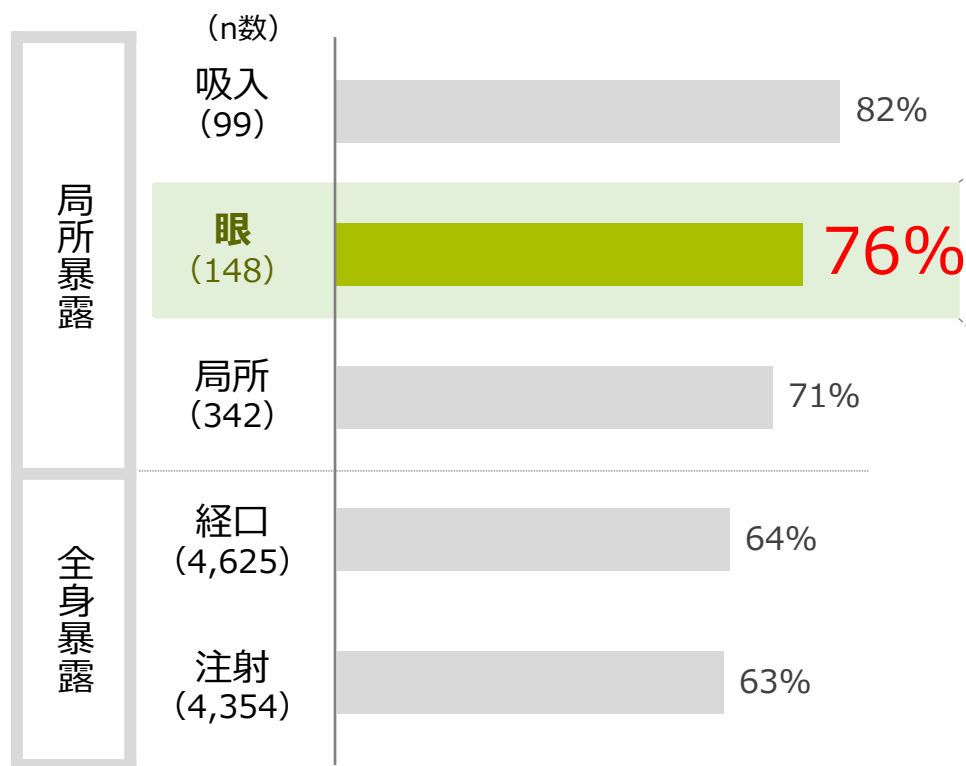
2027年
眼科手術補助剤
DW-1002
(米国・日本)

2028年
フックス角膜内
皮変性症K-321
(米国)

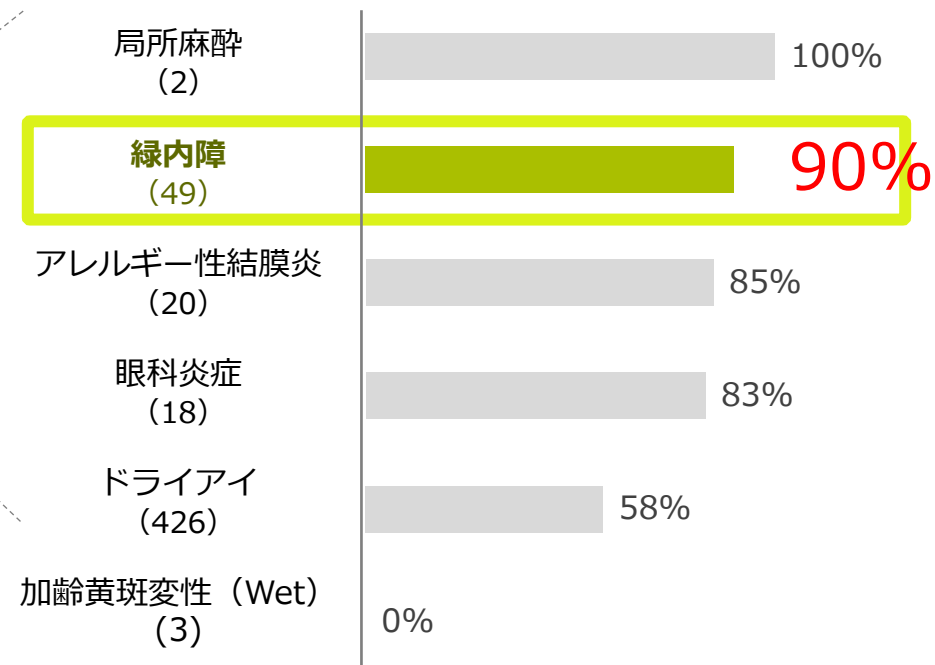
眼科領域の成功確率

局所暴露は全身暴露よりもP3成功率が高く、眼で76%。眼を投与経路とする眼科疾患の中でも、緑内障は成功率が高い

主な投与経路ごとのP3の成功確率



主な眼科疾患ごとのP3の成功確率



出所：Evaluate Pharma（2023/12/20時点）よりアーサー・ディー・リトル/グロース・キャピタル作成。対象製品はNME（Patented Compound）

資金調達の概要

【特徴】

- ✓ 社債と新株予約権を組合せて、約30億円を調達予定。
- ✓ 臨床試験は、開始前に一定の金額を確保する必要があるため、社債により機動的な資金を確保。かつ、希薄化に留意した設計。

【資金使途】

具体的な資金使途	金額 (百万円)	支出予定時期	内容
「H-1337」の開発資金	3,086	2027年1月 ～2031年3月	国内臨床試験の実施、治験薬製造、 規制当局対応等

第14回新株予約権の概要

第14回新株予約権（行使価額修正条項付）	
調達予定額	3,086百万円（差引手取概算額）
潜在株式数	39,000,000株（2026年6月30日現在の総議決権数に対し、67.87%）
行使期間	2026年10月1日～2029年9月30日
当初行使価額	79円
行使価額修正	行使請求の効力発生日の前取引日の普通株式の普通取引の終日の90%に相当する金額に修正、下限行使価額44円（発行決議日前営業日終値×50%）
割当予定先	グロース・キャピタル
その他	行使停止、取得条項、譲渡制限等

第 2 回無担保社債の概要

第 2 回無担保社債	
社債総額	500百万円
払込期日	2026年10月 1 日
償還期日	2027年10月29日
償還方法	満期一括償還のほか、繰上償還条項が規定されています。 ①社債の金額（12.5百万円）の整数倍に達する金額が払い込まれる度、5取引日以内に繰上げ償還します。 ②2026年12月末までは、行使累計額から3億円を控除した額を繰上償還の基準額とし、①を適用します。 ③2026年12月末までに行使累計額が3億円に達しない場合、2027年1月以降の行使累計額に対して、①を適用します。
割当予定先	グロース・キャピタルに400百万円、ネクスト・グロースに100百万円をそれぞれ割り当てます。

No.	質問	回答
1	本資金調達（※）スキームを選んだ理由は何でしょうか？ ※第14回新株予約権＋第2回無担保社債	本資金調達は、本社債によって早期に必要な資金の調達が一部確約されていることに加え、本新株予約権により手元で必要な資金を高い蓋然性をもって調達できる一方で、行使タイミングの分散化も図られる設計となっており、かつ一時に大幅な株式価値の希薄化が生じることを抑制することが可能であり、既存株主の利益に配慮しながら当社の資金ニーズに対応しうる、現時点における最良の選択であると判断しました。
2	本資金調達スキームのメリットは？	本新株予約権については、発行当初から対象株式数が39,000千株と固定されており、希薄化の割合の上限が予め固定されています。 また、株価に連動して行使価額が修正されることから、株価上昇時には資金調達額が増加します。
3	本資金調達スキームのデメリットは？	株価が下落した場合、実際の調達額が当初想定額を下回る可能性があり、本資料11頁に記載されている資金使途に適時に充当できない可能性や、当社の経営戦略に影響を及ぼす可能性がございます。

No.	質問	回答
4	株式はいつ発行されますか？	本新株予約権の行使期間は3年間（2026年10月1日～2029年9月30日）であり、その間の行使により株式が発行されます。
5	割当予定先としてグロス・キャピタルを選んだ理由は？	グロス・キャピタルからの提案は、当社の事業・成長戦略への理解が深く、既存株主の利益に配慮しつつ当社の資金ニーズを満たす最適な提案であると判断いたしました。また、同社が、資金調達にとどまらず多くの上場ベンチャー企業の支援実績を有すること等を総合的に勘案し、選定いたしました。
6	貸株を行う予定はありますか？	当社代表取締役社長 日高有一との間で株式貸借契約を締結する予定であります。対象株式の貸借料は無償とする予定で、当該契約の締結にあたり担保権は設定いたしません。
7	本資金調達が想定どおりに進まない場合の対応はどうなりますか？	株価が長期的に下限行使価額を下回る状況では、本新株予約権の行使は見込まれず、調達額が当初想定額を下回る可能性があります。 調達額が予定に満たない場合には、自己資金及び他の方法による資金調達の実施等を検討する予定です。



「日本発の画期的な新薬を世界へ」

デ・ウエスタン・セラピテクス研究所
D. WESTERN THERAPEUTICS INSTITUTE

- 本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としておりません。
- 投資のご検討にあたっては、投資者ご自身の判断において行われるようお願いいたします。
- 本資料は正確性・公平性を期し慎重に作成されたものでありますが、当社の有価証券への投資判断にあたって必要となるすべての情報が含まれているものではなく、また、本資料に記載されている情報の真実性、正確性又は完全性について当社として保証するものではありません。
- 本資料中の業績予想並びに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、実際の結果は事業環境の変化等の様々な要因により、将来見通しとは大きく異なる可能性があることにご留意ください。
- 本資料に含まれる当社以外に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、当社はかかる情報の正確性、適切性等について検証を行っておらず、またこれを保証するものではありません。
- 本資料の使用又は内容、情報等に関して生じたいかなる損害についても、当社及び情報提供者は一切責任を負いかねます。

株式会社デ・ウエスタン・セラピテクス研究所